欧州　～ハードとソフトの間で揺れる英国～

経済調査部 主席エコノミスト　田中 理(たなか おさむ)

離脱後の対EU関係は?

まさかの「離脱」に終わった英国の国民投票から半年余りが経過し、英国が今後どのような形で欧州連合(EU)から離脱するかを巡って、産業界や金融市場参加者の間で一喜一憂が続いている。離脱後もEUと関税なしの貿易を続け、共通規則が適用される単一市場へのアクセスを確保する「ソフト・ブレグジット(穏健な離脱)」に向かうのであれば、英国は今後もEUの有力な進出拠点としての地位を維持することになりそうだ。他方、独自の移民政策の採用やEU予算への拠出を回避することを優先し、主要な取引相手であるEUとの貿易に関税が掛かったり、単一市場へのアクセスが制限される「ハード・ブレグジット(強硬な離脱)」に向かう場合、英国に進出する企業の一部は他のEU諸国などへの移転を余儀なくされよう。

離脱後のEU関係を巡っては、①EU加盟国ではないが、準加盟国的な立場で単一市場にアクセスする「ノルウェー型」、②EUと多面的な個別協定を結んで単一市場にアクセスする「スイス型」、③関税や非関税障壁の相互撤廃を目指す自由貿易協定(FTA)を結ぶ「カナダ型」、④域外関税をEUと共通化する関税同盟を結ぶ「トルコ型」、⑤世界貿易機関(WTO)のルールに基づく貿易取引を行なう「WTO型」などに類型される。番号が若い「ノルウェー型」が最もソフトな離脱で、「WTO型」が最もハードな離脱に相当する。

強硬離脱か、穏健離脱か、その中間か?

英国のメイ首相は10月初旬の保守党大会で、「食品の成分表示から移民のコントロールに至るまで、あらゆる政策の決定権を取り戻す」と演説。独自の移民政策を優先し、単一市場へのアクセスを犠牲にする「ハーダー・ブレグジット(よりハードな離脱)」に傾いているとの受け止めが広がり、ポンド相場の下落圧力が強まった。ノルウェー型やスイス型は政策決定の多くをEUに委ねるため、英国が目指す姿に一番近いのはカナダ型だろう。だが、10月末に署名に漕ぎ着けたEUとカナダの貿易協定は、協議に5年余り、各国の議会承認に2年余りの月日を要した。署名直前にはベルギーの地方議会の反対で合意が危ぶまれるケチもついた。英国の離脱協議も難航が避けられず、原則2年の協議期間中に合意を取り付けるのは困難だ。

「ソフター・ブレグジット(よりソフトな離脱)」の期待も消えていない。英国の高等法院は11月初旬、離脱手続きを開始するには議会承認が必要との判決を下した。国民投票で残留票を投じた議員の多くも投票結果を尊重する方針に傾いているとされ、議会が離脱を阻止する可能性は低い。それでも、離脱協議への議会関与が強まれば、産業界や金融界の意向を無視し、政府が強硬な離脱に突き進むリスクが後退する。英国政府は来年3月末までに正式な離脱協議を開始する方針を示唆している。今後も離脱協議の行方から目が離せない。

資料1　離脱後の英国とEU関係の諸類型

		単一市場へのアクセス			移動の自由		予算・立法	
		関税なし貿易	単一免許制度	通関事務なし/域外共通関税	ヒトの移動の自由（共通移民政策）	国境管理（シェンゲン協定批准）	ＥＵ予算拠出	立法過程への参加
現在の英国		○	○	○	○	×	△	○
英国の目指す姿		○	○	○	×	×	×	×
一般的なＥＵ加盟国		○	○	○	○	○	○	○
ノルウェー型		△	○	×	○	○	△	×
個別協定	スイス型	△	×	×	○	○	△	×
	カナダ型	△	×	×	×	×	×	×
	トルコ型	△	×	△	△	×	×	×
ＷＴＯ加盟国		×	×	×	×	×	×	×

(出所)英財務省資料を参考に第一生命経済研究所が作成
(注)表中の○は完全に当てはまる、△は部分的に当てはまる、×は全く当てはまらない。